

実施クラス	実施日	実施保育者名
5歳児 きりん 組	6月30日(月)	瀧川 希海

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス～天気～ 太陽の光で遊ぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
室内に太陽の光が入ることによってまぶしさや暖かさを 感じる等がある。		
活動スケジュール	環境設定・準備物	
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の光やライトが当たるとできる物について考える。 室内に入った太陽光を使い、景影を作って遊ぶことを伝える。 	<環境設定> <ul style="list-style-type: none"> ・動き回る活動の為、机は片付けておく。 ・しっかり座って話を聞けるよう、壁に沿って椅子を置き座る。 ・太陽光が弱い時は部屋の電気を消す。
10:05～10:25	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋にある物から景影を作りたい物を1つ選ぶ。選んだら①何を選んだか②どんな景影ができると思うかを前に出して発表する。 ・実際に景影を作って観察する。 	<準備物> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子 ・部屋にある景影ができるような物
10:25～10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・景影を作ってみて①予想通りか違っていたか②景影の色はどうかだったかを前に出して発表する。 	
10:35～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・同じことを外でもやってみたらどうなるか考え、発表する。 ・後日、外に出られる日に同様のことをやることを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・天気の中で 晴れの天気 に注目し、太陽の光や影について考えたり遊んだりする事を通して探究する機会を作った。</p> <p>・子ども達自身に影にしたい物を決めてもらい、自分の気になった物についてどうなるか考え探究する機会を作った。</p> <p>・人前で発表する機会を作り、聞いている相手に聞こえる声で話したり、相手の話を聞いたりする練習をした。</p>	<p>〈子どもの姿、声〉</p> <p>・自分自身で影にしたい物になるか、気になる物を選んで「丸い形になると思う」「貝がらみたいな影になると思う」と話していた。</p> <p>・人前で発表する事に緊張し、保育者にくっつく子もいたが、ほきはき発表する子もいた。</p> <p>・影に色がついた子もあり「薄紫になった」と驚いていた。</p> <p>〈保育者との関わり〉</p> <p>・影にしたい物を向きを変えた時の影の見え方はどうか、場所によって違いはあるか声掛けを行った。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・本来は戸外で行う活動だったが暑さで出られない状況の為、室内で行った。室内と戸外での影の見え方の違いについて考える良い機会になった。</p> <p>・人前で発表することに慣れてほしいと思い、発表する機会を使った。子によってはほきはき話す子、保育者のサポートが必要か子があり、今後の活動を通してどの子も人前での発表に慣れていけたらと思った。</p>	<p>電気を消しても、やっぱり光がもれ。(スクリーンを降ろせば) 影がうっすらうつたが、太陽の光の不思議を知るには良い活動だったように思う。保育士の尊重によって、子ども達も自ら光を探したり発見を我先に発表しあっている様子があったみたい。保育の子達にもっとも</p>

興味深い活動だったよだね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 きりん 組	7 月 25 日 (金)	瀧川 希海

● 実施計画

活動テーマ		
たばもの ~水~ 水はどこからくるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水の絵本を読んだことのある子も多く、なんとなく水の循環を理解している様子がある。		
活動スケジュール	環境設定・準備物	
時間	内容	
10:00~10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・前回作成した 園の水探索マップを見ながら水がどこにあつて誰が使っていたか振り返る。 ・水はどこからくるのか考え、発表する。 	<p><環境設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水についてよく調べられるように水についての絵本や図鑑、写真等を用意する。 ・答えを知っている子がいても、全員から意見がでるまでは発言する時間を取る。
10:05~10:25	<ul style="list-style-type: none"> ・水の循環について、どこから来てどのようにして蛇口から水が使えるようになるのか考え、発表する。 ・図鑑や絵本などを用いて水の循環について調べる。わかったことをグループごとに発表する。 ・浄水場の働きについて、絵本や図鑑を用いて調べる。わかったことをグループごとに発表する。 	<p><準備物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の絵本、図鑑、写真 ・模造紙(事前に枠を書き込んでおく) ・子どもからマップ作りが必要と言われたもの <p><事前準備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑や絵本を読み、水の循環について理解を深めておく。
10:25~10:55	<ul style="list-style-type: none"> ・水の一生について、絵を挿して表現する。どの順番で、どの画材で描くか クラス全体で話し決めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察が難しいもの(排水管や貯水槽タンクなど)は写真を印刷しておく。
10:55~11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した水の一生の絵を見ながら活動を振り返る。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、どこで水を使っていたか確認した。 ・水がどこからくるのかグループで意見を出し合い発表した。 ・水の循環について絵本や図鑑で調べあがったことを発表した。 ・浄水場の働きについて考え、発表した。 ・水の循環のめり絵もグループでぬった。 	<p>〈子どもの姿、声〉</p> <p>・水がどこから来るかについて、雲や雨海が関わっていると感じる子が多くいた。</p> <p>・水を浄水場などのようにしてきれいにしていくと思うか問うと「水専用のシャワーを使ってる」「スプレーできれいになる」と柔軟な発想を見せていた。</p> <p>〈保育者との関わり〉</p> <p>・話し合いが上手くいかない際は保育者が間に入りどう相手に伝えたら良いか助言し、なるべく子ども達で話し合いを進められるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・別の月で行ったコンテンツの内容を覚えていて「海が蒸発して雲になって雨がふるから始まりは海や雲ではないか」と考える子がいた。過去の学習が今の活動で活かしているように感じられた。 ・活動時間がかなり長くなってしまったが長い間頑張れた事をほめると「小学生より長く座ってた？すごいね」と喜んだり、自信が身に付く子がおり、声掛け次第で子ども達のやる気につまげられるのだな、と思った。 	<p>事前に準備がしっかりほかれていると感じました。自分のクラスの子どもの発意にあうよう、子どもの探究心もそえられるよう、ものの準備や話し合いの流中のエビデンスも示しているからこそ、子ども達が主体的に考え、発言する姿がみられたのだと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 きりん 組	11 月 13 日 (木)	瀧川希海

● 実施計画

活動テーマ

アート～ふしぎな絵～
なんの絵に見える？

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

普段から絵を描いたり物を作ったりすることが好きで、製作遊びに取り組む姿が多く見られる。絵本やポスターをじっくり見て「これは〇〇みたい」と話したり、友だちと一緒に描いたものを見比べたりしながら、身近な絵や模様に関心を寄せている。

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:00～10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・前月の振り返りとして、混色クイズを行い、色の見え方が変わったということを出せるようにする。 ・活動の導入として、「今日は色々な絵を見てみよう？」と問いかけ、子どもたちの関心を引きつけるようにする。 ・「不思議な絵には、何が隠れているかな？」と、これからの活動に対する好奇心を高められるように伝える。 ・最初に「牛とペンギン」「タコと鳥」などのだまし絵を観察してもらう。「この絵は何に見える？」と子どもたちに問いかける。 ・「本当かな？」と疑問をもちながら、見え方が違うことに気づく場面を体験できるようにする。 ・子どもたちに意見を述べさせ、各自の感じ方や考えを共有できるようにする。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが集中できるように机や椅子の配置を整え、グループ活動しやすいように配置する。 ・視覚的な刺激が強いため、絵をじっくり観察できるように各自の席に配慮する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○違う絵が見える ・牛とペンギン ・鳥とタコ ・白黒の模様の中に犬が見える ・木の絵の中に動物がいる ・階段を下りている人の絵に矢印が見える ・ゾウと犬 ・階段を昇るネコ
10:15～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、少し難易度の高い絵を見せる。 ・「どこを見たら犬が見える？」「階段がどうしても下に見えるの？」と、見え方を意識しながら観察できるようにする。 ・見つけられたものについてみんなで共有し、思ったことや感じたことを言葉にする機会を作る。 ・「エッシャーの『滝』や「階段を昇るネコ」の絵を紹介し、どんな不思議な点があるかを一緒に考えたり、発言できるようにする。 ・「何か変かな？」と問いかけ、絵を見ながら「水は高いところから低いところに流れる」などの自然法則を確認する。 ・子どもたちに指で絵の中の流れや動きを追ってもらい、目の錯覚に対する理解を深めていく。 ・「はしごの絵」を使って実際に錯覚の体験をする。片方の目を手で隠して見ることを伝える。 ・「どこから見たら真っ直ぐに見える？」と質問し、実際に動いてみてはしごがどう見えるのかを体験し、意見を引き出していく。 ・組み立てたはしごを見て、「どうしてこんな風に見えるんだろう？」と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つじつまが合わない絵 ・エッシャーの「滝」 ・階段の絵 ○はしごの紙 ○空き缶(ペットボトル) ※折り曲げたはしごの紙を垂直に立てるためのもの ○セロハンテープ
10:40～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで「この位置から見てみたらどう見えるか」を共有し、意見の違いを楽しむ。 ・「もし、この絵を描いたら、どうしたらこんなふしぎな絵が描けるかな？」と問いかけ、今後のアート活動に向けての興味を高める。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日のテーマの説明。 ・ だまし絵を見る。(3グループに分かれて見る) ・ グループごとに気がついたことを発表する。 ・ 「はしごの絵」を組み立てる ・ どの角度からならはしごに見えるか自分でさがす ・ 活動の振り返りをする。 	<p>〈子どもの姿・声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初はだまし絵を見て意味があかてない様子だったが、保育者が見方を教えると「顔みえた!」「さるいた!」と面白そうにしていた。 ・ 自分達なりに何が見えるか考え、「これダイヤの形じゃない?」「これ鳥じゃない?」と話していた。 <p>〈保育者との関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初にだまし絵の説明を軽くするだけにし、先入観なくだまし絵の不思議を楽しめるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ だまし絵のしかけに気が付くと絵の不思議を楽しむ姿があった。 ・ 子ども達なりに違う見え方をさがして話す姿があり、確かにそう見えるなと気づかされることがあった。 ・ はしごの絵では自分ではしごに見える場所を見つけた時、喜ぶ姿や気持ちよさそうな姿を見ることができてよかった。 	<p>固定観念にとらわれがちな子どもが(ふいめ見受けられたが)、友達と意見を交わすうちに、「見よう」「面白がる」という気持ちになり、多様な見方ができるようになっていましたね。初めに担任が、ダイニング、見方のヒントを伝えたのが大きなきっかけとなったように思います。</p> <p>Nice helpです!!</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 きりん 組	1 月 30 日 (金)	瀧川

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お店屋さんごっこで交換を体験		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お店屋さんごっこをして遊ぶ等がある。値段を決めて売ったり、電子マネーの機械を作ったりしている。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:00	・前回の活動を振り返り、オリジナルのお金の形や、そのお金で何が買えるか、いくらの価値にするのか考える。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にしている。
10:10	・買い物の実体験を思い出しながら、欲しいものを全部買えない時のことを考える(買えないのはなぜか)。	【活動使用教材】 ・模擬貨幣(紙幣、硬貨) ・オリジナルのお金 ・模擬商品(玩具、絵カードなど) ・値札 ・買い物用のかご または 袋(人数分) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:15	・お店屋さんごっこでも買えない物がある可能性を伝え、活動につなげる。	【事前準備】 ・模擬商品をさまざまな種類(食品、おもちゃ、文具、日用品など)用意する。 ・商品の種類によって値段の幅に差をつけ、子どもたちが「何を優先して買うか」を考えるきっかけを作る。 ・お金の計算が目的ではないため、値段は子どもたちにとって分かりやすく設定する。
10:20	・子どもたちに一定額の模擬貨幣(例:100円分)と買い物かご(袋)を渡し、買い物ごっこを始める。	
10:40	・実施者が店員役となり、子どもたちは限られた予算の中で、欲しい商品を自分で選び、購入する。 ・買った物と買えなかった物を振り返り、発表する。	
10:45	・「買ったものリスト」「買えなかったものリスト」をホワイトボードにまとめる。	
10:50	・なぜ、買ったものと買えなかったものがあるのか、お金の量や商品の値段の意味について考えていく。	
11:00	・次回は「必要なもの」と「欲しいもの」について探究することを伝える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動の振り返り ・模擬貨幣を配り、予算1000円で買い物をする話を話す。 ・グループごとに買い物をする。(店側は保育者がやる) ・予算内で買い物をする。必ず使い切ってもいいし、おつりを残してもいい。 ・振り返り ・次の活動の話をする 	<p>〈子どもの姿・声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな物をどんどん買おうとするも予算オーバーになる子がいた。 ・理解が早い子は別の値段の物を組み合わせるほいものを決まったり、「ここまでにする。お金残したい」と途中でやめたりしていた。 <p>〈保育者の関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持っているお金を何をもどれくらい買えるかわからない子が多かった為、「〇〇を2つなら買える」、「〇〇と△△を

あわせてもいいね」と助言し

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・以前の物々交換より本格的な買い物を体験できた。 ・数字は読めてもそれがいくらかどれくらいお金があれば買えるかが難しくわからない子が多かった。 ・金額はどどういう順番で大きくなるのかを伝えたり、「これなら2つまで買えるよ」と助言すると伝わりやすかった 	<p>グループ毎に予算を考えたから協力して買い物できたのはとても良かった。特にこのクラスは、個小生も多種多様で、今回の活動を集団で行うには工夫が必要であった。子ども達相互の個小生も(理解力やスキルバラッキや個人差がある中)グループで特意不特意を仲間間で助けあってフォローしていたのはとても良かった。</p>